

大学出版

The Association of
Japanese University Presses

No.138

2024.5

春

【特集】生成型AI時代の大学出版

——第三九回日本・韓国大学出版部協会合同セミナー——

生成AIをめぐる日韓対話

——セミナー参加報告 柴田純 1

生成型AI時代の到来、そして大学出版 金成柱 7

韓国側報告へのコメント 古澤言太 16

生成系AIをどう活用するか？

——日本の現状から探る 大橋裕和 18

日本側報告へのコメント 金恵智 24

【連載】何年経っても忘れられない、編集者の一冊《13》

安藤潔著

『イギリス・ロマン派と英国旅行文化』 畑岡壮一 表2

大学出版部ニュース 26

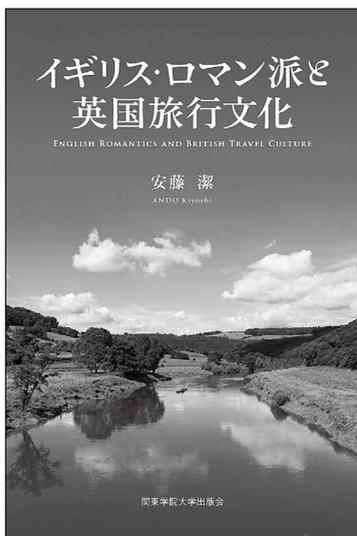


何年経っても忘れられない、編集者の一冊〈13〉

安藤潔著

『イギリス・ロマン派と英国旅行文化』

畑岡壮一（関東学院大学出版会）



色鮮やかな美しいカバーの写真は、著者の安藤潔先生ご本人が自ら車を駆って湖水地方やスコットランド、ウェスト・カントリーを巡り撮影したもの。南ウェールズのワイ川とスコットランドのLoch Aweである。著者の強い希望により、研究者として尊敬されている龍谷大学名誉教授の山田豊先生のご著書をイメージに、カラー写真を全面に出したうえでタイトルの書体にもこだわった。

[関東学院大学出版会・2022年／A5判・332頁・定価 3,300円]

当出版会は諸般の事情で一時的に活動を休止していたところ、二〇二一年のコロナ禍二年目、社会や大学がその混乱の対応に一定の道筋をつけて動き始めた頃と同時に活動を再開した。着任した者は私も含めていざれも出版業務は未経験であり、前任者も既に退職していたことから、原稿募集を始め編集や学内外との対応、営業に至るまでの殆ど全てを、厳重にマスクと換気をしつつ感染に怯えながら、手探りで行っていった。当然、素人の大学職員が、いきなり専門職としての編集をこなせるわけもなく、外部のフリー編集者やカバーデザイナーにご指導とご助力を仰ぎながら新刊の制作を進めた。そのような厳しい状況で最初に完成した一冊が本書である。

私は大学図書館で司書を務めていた経験から、恥ずかしながらある程度は本について知っているつもりでいた。しかし、出版に不可欠な制作や流通という過程を今まで意識していなかったことを、この仕事に就いて初めて思い知らされた。具体例を挙げればきりが無く、今までの経験が役に立つことも多かったが、本好きを自称してきた自分にとって、それはかなりの衝撃であった。本書の制作については、著者の安藤潔先生が入念に時間をかけて準備された原稿と、先生みずから英国各地を巡り撮影された豊富で精彩な写真があったことから順調に進み、予定どおりに刊行することができた。コロナ禍の移動制限により閉塞感と不安が募る中、読者もワーズワスと共に英国を旅するかのよう書かれた文章と美しい風景写真に、校正をしながらどれだけ慰められたことだろうか。

印刷所から届いた梱包を開封した時に現れた色鮮やかな表紙とインクの匂いや、ページを捲って間違いが無かったことを確認できた時の安堵感言葉にし難い。大学出版会に配属されて本書を制作する機会が無ければ、本について知ったつもりで人生を終えるところであった。それらの意味において、私が初めて制作に携わった、「何年経っても忘れられない」一冊である。

特集*生成型AI時代の大学出版

生成AIをめぐる日韓対話——セミナー参加報告

柴田 純 (大阪大学出版会)

第三九回日本・韓国大学出版部協会合同セミナーが、二〇二三年一〇月一八日(水)〜二〇日(金)の三日間にわたり、大韓民国済州市(済州島)にて挙行された。筆者も大阪大学出版会より随行したので、その模様を報告する。

今回のセミナーの主題は「生成型AI時代の大学出版」である。セミナーは基調講演と日韓代表者による報告発表を中心とし、参加者同士の交流と、済州各地の見学や歴史学習も併せて行われた。また、日本側でも独自に現地の書店視察などを行った。なお、日本側参加者は筆者を含め八出版部より一二名であり、対する韓国側は一四出版部と事務局より二七名であった。

本報告では、開催地の概略およびセミナーでの講演・発表と現地見学についてそれぞれ時系列に沿って記すとともに、若干の雑感を付すこととしたい。

開催地・済州島について

済州島は福岡から西に三百キロ余り、東シナ海に浮かぶ島であり、単独で済州特別自治道を形成する。面積は香川県と同程度、人口は約七〇万人である。案内役によれば、一時期五〇万人台に落ち込んだが、近年の移住ブームにより回復傾向にあるという。韓国本土から見れば南国であるため、人気の観光地となっている。日本で離島といえは人口減少と高齢化がつきものだが、今回見聞した範囲で言えば、済州島は韓国本土に負けない、活気ある島だった。

セミナー一日目

基調講演

セミナー一日目は、ユン・ヒョンソク(Yoon, Hyeonsook, 済州大学校産学協力教授)氏による基調講演「人工知能技術(CHATGPT, 生成AI)が作る出版産業の変化」



は掲載割愛)。

とりわけ、生成AIの普及により著者の執筆プロセスや出版社の編集プロセスが変化するとともに、生成AIの関与によりコンテンツが激増することで、読者の行動もまた大きく変わるだろうという見通しは示唆的であった。

セミナー二日目

韓国側発表

続くセミナー二日目は日韓の代表者による発表が行われた。韓国側発表は、金成柱氏(韓国放送通信大学校出版文化院)の「生成型AI時代の到来、そして『大学出版』である。本発表では、様々な問題をはらみつ、

が行われた。ユン教授は済州特別自治道の未来戦略局長ほか、先進技術に関する要職を歴任されている。今回の基調講演は、現代がデジタル化やAI技術の

進展を中心とする第四次産業革命のただなかにあるという認識のもとで、生成AIの概略とその現状を解説し、さらに電子書籍やオーディオブックの普及といった近年の出版事情の変化とあわせて出版産業の変化を展望するというものである(本誌で

出版業界にもAIの影響が及びつつある韓国の現状について報告された。発表では執筆、編集、デザイン、翻訳、マーケティングといった出版の各プロセスでのAIの導入事例や課題が具体的に紹介され、最後にAI時代に大学出版はいかに対応するかの考察が示された。

本発表では広範な調査に基づく具体例が多く提示され、AIと出版の見取り図を把握する上で大変有意義であった。AIといえば今や生成AIがまず連想されるが、機械翻訳やネット書店のレコメンドシステムなど、既に本の世界にもAIが深く浸透していることに改めて気付かされた。

日本側発表

対する日本側発表は、大橋裕和氏(京都大学学術出版会)による、「生成系AIをどう活用するか?」

——日本の現状から探る」であった。大橋氏も本発表にて、日本の現状と、出版プロセスにおける生成AIの活用想定事例を述べたが、韓国側発表と比べて編集者としての視点から具体的に検討されていた点が印象的だった。

とりわけ学術出版の立場では、AIが執筆・編集に介在した際に正確性を誰が担保するのか、すなわちAIがかかわった文章に著者・出版社は責任を持てるのかという問題は重要であろう。また、「研究者が自分で発信できる世の中で、われわれ出版社はどれだけ必要とされるのか……著者との「協創」の場を我々はどう作れるのか、AI以上の価値をどう提供できるのか。そこは大きな課題」(当日発表より)という点は、AIにかかわらずデジタル化の趨勢

にあつて我々が共有すべき問題意識であると思われる。

セミナー雑感

生成AIについて 一方、自らの現状を顧みると、漠

然とした危機感はあるものの、生成AIの活用は道半ばどころかスタートラインにさえ立っているか怪しいのが実情である。例えばあれこれ考えながらも試しに本のキャッチコピーを作成させてみるも今ひとつだったり、会社のマスコットでも作れないかとAIに妙なカートゥーン風ゆるキヤラを描かせてみたりという程度にとどまっている。

とはいえ、今回の基調講演や発表、また最近の各種セミナー類の盛況ぶりから考えると、試行錯誤はありつつも、生成AIは少しずつ出版業界にも取り入れられていくのだろう。現代はその草創期であろうが、草創期特有の力オスさを楽しむぐらいの気構えで、できることから始めていきたいということである。

日韓出版部の交歓 ところで、筆者にとつて、日韓セ

ミナーでの訪韓は今回が初となる。本セミナーを通じて強い印象を受けたのは、韓国側の手厚く温かい歓待ぶりである。会場となるホテルのセッティング（玄関に歓迎の巨大な横断幕）にはじまり、次から次に景品が繰り出されるプレゼント交換会や、偶然当日誕生日であった日本側参加者へ急遽バースデーケーキを用意いただくなど、紋切り型ではあるが「情」の国、という言葉を思い起こさずにはいられなかった。

加えて、講演・発表と並んで、夕食会など懇親の場での平場の交流も印象的であった。言語の壁はありつつも、同時に異文化コミュニケーションを楽しむ参加者が日韓双方に見られた。携帯型通訳機を駆使し出版について熱心に論を交わす人、わずかな交歓の間に友情を深め、古くからの友人のように歓談する人の姿などからは、本セミナーが海を越えて出版人としての共通基盤を確認する機会として機能していることが窺えた。

古代史研究から
切り拓く〈未来〉への
眼差し

シリーズ 古代史を ひらくⅡ

全6冊

吉村武彦・吉川真司・
川尻秋生 編

既刊
四六判 定価各3080円

古代史研究から
切り拓く〈未来〉への
眼差し

吉川真司編 佐藤泰弘・武井紀子・山本悦世・上杉和央・奥村和典

古代人の一生

吉村武彦編 菱田淳子 若狭 徹・川敏子・鉄野昌弘
天変地異と病
川尻秋生編 藤野紀 柳澤和明・右島和夫・本庄 亨・中 塚 武 丸山浩治 松嶋大剛

刊

古代王権
一王はとうして生まれたか
列島の東西・南北
一つながりあう地域
続

撰関政治

―古代の終焉か、中世の開闢か―



岩波書店

東京・千代田・一ツ橋

www.iwanami.co.jp



現地見学

一〇月一九日 また、

今回のセミナーでは現地見学も積極的に行われた。日程の関係もあって強行軍であったが、現地の文化や風土に触れるまたとない機会であった。

セミナー二日目の午後、地場産業のクラフトビール・濟州麦酒工場（筆者は下戸のため味は言及不能）を見学、次いで一気に南下し濟州島本島南端の松岳山に向かった。松岳山は海に面した小高い丘である。

昼下がり、天気は快晴、草原では放牧の馬が草をのその食んでいた。穏やかな風景に癒やされるが、ふと岸壁の洞窟に目をやると、看板に「Imperial Japanese Military」云々と見えた。第二次世界大戦末期、日本軍が設営した洞窟陣地の跡である。当時人口二三万の島に、七万五千の兵が配備されたという。東シナ海に浮かぶ島の、南の端の穴倉が帝国最後の砦と思うと、苦いものがあった。

日も傾き、次第に冷えてきたころ、この日最後の目的地、植物園カメリア・ヒルへ。東洋最大の椿園という話だが、

秋は代わりにミュレンベルギア（ススキの仲間で桃色に穂が色づく）が見ごろであった。

一〇月二〇日 セミナー三日目は終日現地見学となった。まずはメディアアートの美術館「老衛スパーマーケット」へ向かう。最新のAV機器やレーザーを駆使したメディアアートの体験型施設であるが、現地の修学旅行生の大群とかち合ったため早々に退散を余儀なくされた。

この日特筆すべきはやはり四・三平和公園であろう。一九四八年四月三日、日本の植民地支配終了後、米軍軍政下にあった濟州島にて当局と一部住民との衝突が発生。共産主義勢力の策動と断定した当局の徹底した武力行使により、無関係の住民を含む多数の死傷者が出た。この四・三事件では、当時人口三〇万の島で三万人が虐殺されたとされる。現地の解説によれば、軍事独裁下の韓国メディアが沈黙する中、濟州島出身者の多い関西の在日コリアン文学者・研究者・ジャーナリストが最初に声を上げたという。

打って変わって、次に訪れた城山日出峰は世界自然遺産に登録された景勝地である。濟州島最東端の岬で、海面に突き出た小さな火山が砂嘴で本島とつながっている。海も空もひたすらに青かったことが記憶に残っている。

大急ぎで峰の上って降りてくると、今回はじめての書店訪問に向かった。先に述べた城山日出峰のほど近くの畑の中に、「小・心書房 (Sosimbook)」という書店がある (sosimは控えめというぐらゐの意味らしい)。一見すれば何かの倉庫

豊かで多様な(近世)のすがた

日本近世史を見通す 全7巻

刊行中 各3080円

●体制危機の到来

荒木裕行・小野 将編 近世後期国内外の諸問題への対応を模索するも限界を迎えるまでを通観。

●●●●●=既刊 [内容案内]呈

文書館のしごと

アーキビストと史料保存
新井浩文著 地域史料の保存・公開などの仕事を解説し、今後への展望を提示する。 2200円

御成敗式目 ハンドブック

日本史史料研究会監修 / 神野潔・佐藤雄基編 「最初の武家法典」は何を定めていたのか。中世の人びとの論理をさぐる。 2420円

高楠順次郎

世界に挑んだ仏教学者
碧海寿広著 仏教史・出版史上の偉業、大正新脩大藏経、女子教育…。近代日本の知の巨人! 1980円

夜更かしの社会史

安眠と不眠の日本近現代
近森高明・右田裕規編 夜なべ、盛り場、睡眠学習…。眠りに何を求めてきたのか。 4180円

Q&Aで読む 日本外交入門

片山慶隆・山口 航編 ベリー来航から現在まで、理解が深まる60のテーマを解説。 2530円

ドナウの考古学

ネアンデルタール・ケルト・ローマ
小野 昭著 音楽や彫像など創造的文化の達成に至る人類史。【歴史文化ライブラリー】 1980円

最新歴史情報を提供する月刊誌

日本歴史

日本歴史学会編集
年間購読料9000円



吉川弘文館

〒113-0033・東京文京区本郷7-2-8
電話03-3813-9151 / 価格は税込

のようにも見えたが、日本でいう独立書店らしい作りで、木目調の落ち着いた店内には小説や人文書や絵本、ZINEが揃っていた。都心から離れた場所にもかかわらず、大入りではないが断続的に来店者がある。この種の書店らしく片隅に小さなカフェコーナーもあるもののそれほど大きくなく、書籍販売を主としているようであった。本に目を向けるとカバーに穴をあけるなど一手間かけた造本が目につく。その割に価格が安いので、どこにからくりがあるのかと一同首をひねる一幕もあった。後でも再度述べるが、濟州では独立書店の元気が目立っていた。
なお、右のほか、かつての濟州島の一大産業であった海女を記念する「濟州海女博物館」もこの日訪問した。
一〇月二二日 四日目は厳密にいえばセミナー外であるが、飛行機の便の関係で関西組のみ午前中市内を見学することとなった。訪れたのは市内の書店二軒である。事前には予定はしていなかったものの、図らずも好対照の二軒であった。

韓国／濟州の書店について

短時間での見学であったが、濟州島では各地に小規模書店
一軒目は旧濟州の中心市街地に店を構える友生堂である。一九四五年以来今まで営業を続けている老舗であり、現在はビルの一階部分が店舗で、広さとしては五〇坪程度だろうか。オールジャンルを扱う街の本屋であるが、雑誌の少なさと学習参考書類の多さが特に目に付いた。
もう一軒は以後ブックス濟州店 (Afterbooks Jeju) である。本店はソウルにあるそうで、店名の由来「本を読んだ後は、世界が少し違って見える」からとのこと。飲食店を改装したと思しい、一見古そうな店舗の中はきれいに改装されており、小ぢんまりした店内に、ゆったりと文芸書、詩の本、ZINEなどが並んでいた。前述の友生堂とは対照的に、こちらは学習参考書が一冊もない。大通りから少し奥に進んだ場所にあるが、店内を見て回っている間にも来客が続いていた。



店が存在し、特色を持って活動している様子が窺えた。地元紙『済民日報』によると、二〇二二時点で済州島に書店は九三軒あり、これは人口比で韓国の一治体中トップ（全国平均の二倍）であるという（『済民日報』WEB版二〇二三年六月二八日付 <https://www.jemin.com/news/articleViewAmp.html?idkno=757216>）。

韓国全体でも十年ほど前から独立書店のブームがあるといい、日本でもその様子を取り上げた書籍が刊行されている（ハンミファ著／渡辺麻土香訳『韓国「街の本屋」の生存探究』クオン、二〇二二年）。実はその要因の一つには、自由価格制による過当競争が、割引を制限する法規制導入により抑えられ、小規模書店にも参入の余地が広がったことがあると側聞するところである。当然のことではあるが、「本」の世界も様々な制度的要因に拘束されること、同時に制度は変え得ることを意識しておきたい。

セミナーを終えて

最後に黒田前理事長の本セミナーでの挨拶の一節を引い

てまとめに代えたい。黒田氏は「日韓の間に複雑な問題があることは事実である」としたうえで、「しかし、困難な時代になったとしても、参加者の方々は日韓セミナーのこの日を思い出してほしい」と述べられた。たしかに草の根の交流が直ちに諸々の問題を解決できるわけではないにせよ、日韓セミナーという場において、出版人としての経験・知見を共有し理解を深めることが、いくぶん問題を緩和してくれる、程度には期待してもよいのかもしれない。日韓出版界の末席を汚している一員として、筆者も及ばずながらその場の維持発展に協力できればと思う次第である。

「付記」済州は何もかもが美味しい所でした。島だけあって海産物は絶品。名産の太刀魚（カルチ）は煮つけにしてもよし、刺身にしてもよし。どこへ行ってもばかデカイサバの塩焼きがついて回ります。口にあう、あわないは人それぞれですが、皆様もぜひ機会があれば済州へどうぞ。

今回貴重な機会を作ってくださった韓国大学出版協会の皆様、およびご多忙のなか日韓セミナーに向けて準備・手配いただいた、本会国際担当の方々はじめ各出版部の皆様にご場を借りてお礼を申し上げます。ありがとうございます。

生成型 AI 時代の到来、そして大学出版

金成柱 (韓国放送通信大学校出版文化院)

I 生成型 AI とは一体何なのか？

AI 時代の到来とその意味

二一世紀は情報技術の急速な発展とともに人工知能(AI)時代に突入している。AIとは、コンピュータが人間のように学習し、推論できる機能を持つシステムを意味する。初期のAI研究はルールベースのシステムに焦点が当てられたが、最近は機械学習とディープラーニングのようなデータ中心の方法論が主流となり大きな発展を遂げた。特に「産業革命4.0」と呼ばれる現在の世代では、AIが重要な役割を担い、すべての産業分野がデジタル化と自動化を通じて再構成されている。すでにAI技術はスマートフォン、自動運転車両、音声認識など日常生活に深く入り込んでいるだけでなく、教育分野でも個人別に合わせた学習経路の提供や成績予測モデリングなど様々な形のAI

活用事例が見られる。AI時代の到来は私たちの社会に広範な変化をもたらすだろう。そして、このような変化を理解し適切に対応することは、将来の大学出版事業で競争力を維持し、成長するうえで重要な要素となるだろう。特に、ChatGPTのような生成型AIは、ユーザーが要求する通りに結果を作り出す人工知能で、未来のビジネスを変えるという期待と不安が共存している。実際、生成型AIはすべての分野において、ますます人間と区別がつかないレベルにまで発展している。

主な生成型 AI サービス

ChatGPT 最もよく知られているChatGPTは、収集したデータを基に文章の形で質問に答える人工知能である。例えば、ミレアセット証券は銘柄情報を要約するサービスにこれを活用しており、Hyuum Labsでは顧客が税法



人にした質問をChatGPTに学習させ、その結果を相談サービスとして提供している。

AutoGPT AutoGPTは、最終目標を設定するとAI自ら目標を達成するための作業を行う。基本的な作業成果はChatGPTと似ているように、ChatGPTができるほとんどの作業を実行できるが、両者の最も大きな違いはプロンプトを自律的に生成することである。AutoGPTの使い方を紹介した動画が数十万回の再生回数を記録して話題になったこともある。

Pictory ChatGPTで作成した文書やスクリーンショットから動画を制作するAIサービスである。スクリーンショットや記事、文章のURLを入力すると動画が自動的に生成され、希望の音楽と音声も選択してアップロードすることができる。

ChatGPTの正体

「Chat」は「対話型」という意味である。これまでは

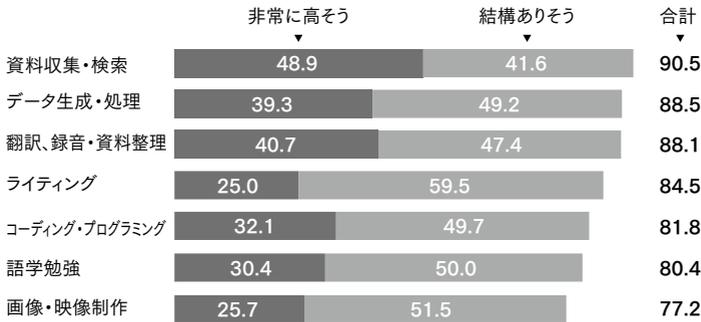
コンピュータに仕事をさせるには、使用者が専用の言語を習得しなければならなかった。しかし、ChatGPTは日常の言語を使用しながら対話形式で情報を得ることができると。

このように会話が可能な理由は、ChatGPTは短期記憶が可能だからである。「GPT」の「G」は生成 (Generative) であり、「何かを生成する人工知能」という意味を持つ。そして「GPT」の「P」は、事前学習 (Pre-trained) であり、七〇〇〇億個以上の単語 (トークン) と五兆個以上の文書を学習しているため、追加学習なしで専門分野に関連するテーマについて適切な答えを出すことができる。そして「GPT」の「T」はトランスフォーマー (Transformer) である。これは、与えられた文章を見て次の単語が何であるかを確率的に予測するディープラーニングモデルの一つであり、五兆個以上の文書の学習の結果、予測が可能となっている。

ChatGPTは、前述したように短期記憶を活用して前の文章を記憶し続けながら推論するが、一七五〇億個のパラメータを持っており、演算する際はそのパラメータを調整しながら計算しているのである。

ChatGPTは二ヶ月で月間利用者が一億人を超え、今では個人や企業の業務、日常サービス、教育など様々な領域で取り入れようとする試みが広がっている。二〇二三年四月の韓国メディア振興財団の調査によると、二〇代の場合、

回答者の半数に近い四八・〇%がChatGPTを経験している。ただし、三〇代は三六・〇%、四〇代は二五・六%、五〇代は二一・四%など、年齢が高くなるにつれて利用率は減少している。また、ChatGPTの韓国語サービスの質が良くないことを考慮しても、国内でAIを普遍的な技術として

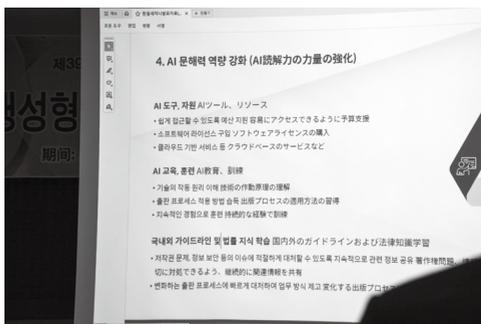


韓国メディア振興財団メディア研究センターオンラインアンケート結果

分野別チャットGPT活用度予測(単位:%)

受容するのに苦労しているものと推察される。それでも、すでにAIは日常の様々な領域で幅広く活用されている。職場では、アイデアの創出(四一%)、コンテンツ制作(二〇%)などに主に使用され、メール回答(一四%)、コーディングコード作成(一一%)、自己紹介書や履歴書作成(一〇%)、プレゼンテーション作成(九%)などにも活用されている(ワードファイナダー調査)。米国の広告サービス会社Fishbowlの調査によると、マーケティング専門家の三七%、技術労働者の三五%、コンサルタントの三〇%がChatGPTを業務に活用している。彼らは、メールの草案作成、アイデア生成、コード作成や問題解決、研究や会議録の要約などの業務にChatGPTを活用して業務生産性を向上させている。

今、社会の各分野でChatGPTをはじめとする生成型AIの活用は避けられない状況である。出版分野もすでに生成型AIの影響が現れており、出版プロセスで活用され始めたうえに、人間ではなくChatGPTが著者である書籍も登場している。ChatGPTによる著作の登場は、出版の核心である文章と著作権の概念に挑戦する大きな出来事といえる。しかし、他の分野とは異なり、出版分野ではまだ本格的な生成型AIと出版に関する学術的研究は十分に行われていない。出版の未来のためには、現時点ではChatGPTがもたらす生成型AI時代に出版がどのように進化するかを模索することが肝要である。出版分野は情報と知識の創造性が



他どの分野よりも重要であるが、逆説的に生成型AIはコンテンツ「生成」の特性から既存のプロセスにはなかった新しい現象を生み出している。しかし、述べたように出版分野が他のどの分野よりも今後大きな影響を受ける可能性が高いにもかかわらず、研究が不足している状況にある。新しい現象の中で、生成型AIが既存の出版プロセスに与える影響と、生成型AIがどのように著者の役割を代替するのかについての学術的研究が優先的に必要である。

II AIと協業した出版プロセスの事例

執筆

国内で初めて人間の作家七人とChatGPTが共同で執筆した七つの小説が小説集『マニフェスト (Manifesto)』に収められている。作家たちは小説の執筆方法を聞いて計画を立てたり、どのような素材を扱うか相談したりすることに加えて、資料調査や文章の調整などにChatGPTを様々な方法で活用した。

また『日本語チャット (日本語Chat)』は、様々な日本語の例文を提示する本やWikidocsのサイトを通じて電子書籍の形で出版された。最初はChatGPTのウェブインターフェースで様々なプロンプトを実験しながら作り、ある程度の結果が出た後はPythonをOpenAI APIで使用することで、作成したいテーマを入力すると文書が自動的に作成されるように開発したのだった。

執筆の分野で使われる場合、通常企画の核となる目次を人が先に作成し、プロンプトエンジニアリング的に生成AIにアプローチしてそこから得られた情報を書籍原稿として完成させる。この方式だと企画にかかる費用が少なく、執筆者探しや著作権支払から自由なことから迅速に本を出すことが可能なので、今後もこの方式で多くの本が出版されることが予想される。

編集

米国の出版社ペンギン・ランダムハウスは、AI技術を活用した自動原稿編集システムで作家の文体を学習し、文脈の検査、スタイルガイドの遵守や可否を検証している。

学術出版における人工知能は、編集・制作の手作業を減らし、高付加価値の出版物をより迅速に生産すること、また個人に合わせたサービスの提供、個人情報保護、研究開発サイクルの分析などといった出版全般にわたる活用も可

知泉書館

カント政治哲学の コンテクスト

(知泉学術叢書 30)

R. マリクス／加藤泰史監訳
政治哲学に関わる論争的言説
を追究。公共圏形成への貢献
を解明 新書/366p/4000円

移動する地域社会学

自治・共生・

アクターネットワーク理論

伊藤嘉高 変容する地域社会
の連関を社会学はいかに記述
できるか。新たな研究法に挑
む画期作 菊/328p/4000円

進化の中の人間

ヒトの意識進化を哲学する

坂本 充 先端科学の知見を
活用し、「進化」を通して人
類の未来に新たな知恵を提供
する 四六/310p/2700円

道しるべ

古の師父たちにならう

谷隆一郎 聖書や教父の言葉
の意味を丁寧に説明し、人生
を善く生きるための知恵を示
す命の書 四六/294p/2700円

名婦伝 [ラテン語原文付]

(知泉学術叢書 29)

ポッカッチョ／日向太郎訳
総勢 106 人の女性伝記集〈イ
タリア・ルネサンス古典シ
リーズ1〉 新書/746p/6400円

人間学入門

自己とは何か

金子晴勇 「汝自身を知る」
意味を解明し、人間学の歴史
や具体的な方法論とその意義
も紹介 四六/270p/2300円

東京都文京区本郷 1-13-2 (税別)
TEL03-3814-6161 FAX03-3814-6166
<http://www.chisen.co.jp>

能である。さらに、原稿内の引用の確認、重複性、盗作の有無、データ操作の兆候発見といった作業は研究のインテグリティを確保するうえで重要な課題であるが、それらに加えて原稿内のテキストの類似度検査の実施や画像の偽変造検出技術にも AI 技術が活用されている。

ビッグデータ専門企業のビッグスターが作った「AI 編集デザイナー」は、タイトル、著者、出版社、絵などを入力すると、これを基に適切な表紙案を生成する。市場で販売されている本の表紙を学習し、大衆的で商用化できる表紙デザインを作り出すことが可能で、ブックデザイナーやプログラマーがなくても表紙デザイン案を無限に作成できる利点がある。今後、ビッグスターは出版界の需要に応じて表紙のデザインのほか、文章を入力すると自動的に本を編集してくれるという、完成型の書籍制作モデルを開発する計画を持っている。それは、表紙以外に誤字・脱字のチェックや組版作業までできるモデルである。

オーディオブック (AI 声優)

電子書籍サービス会社「ミリの書齋」は、昨年 (二〇二二年) 末から AI ベースの音声を活用したオーディオブックをリリースしており、AI 音声合成サービスを通じてこれまで一〇〇冊以上を制作し、約三〇冊を公開している。

実際にオーディオブックを聞いてみるとまったく人と同じではないが、機械的な感じは受けにくい。また、様々な感情が合成できるのが特徴で、韓国語、英語、中国語、日本語、スペイン語などにも対応している。

従来のオーディオブックの制作方法は声優などが参加する場合、原稿執筆から編集作業まで最低二週間から一ヶ月までかかるが、AI を使用した政策は従来と比べて最低でも五分の一〜十分の一ほど時間とコストを削減できる。また、それだけではなく、AI 音声合成サービスは従来の音声変換 (TTS) よりも自然で、実際の人の声と区別がつきにくい。

最近は、歌手ユン・ドヒョンの声を活用して出版したオーディオブック『人間関係が辛くて退社しました』（アンナ著、ノル出版）が「ミリの書齋」とKT A Iボイス・スタジオの協力で作られたり、歌手シム・ギュソンの書籍の朗読、対話、詩を読むといった声を別々に生成して、エッセイ『夜の終わりを告げる』（シム・ギュソン著、キュリオス出版）のオーディオブックが制作されたりしている。

III 大学出版部は何を準備すべきか？

変化する教育政策

政府は「全国民 A I 日常化実行計画（二〇二三年九月）」を通じて A I の普及を推進している。国民が A I に関心が高く、A I によつて日常の利便性が向上する期待も高いと判断したためである。その期待とは、産業の現場は品質改善とコスト削減の効果、公共行政はデータ・A I 中心の「デジタルプラットフォーム政府」の実現である。また教育部門では、「デジタル教科書により、一対一のオーダーメイド教育時代が訪れる」という標語の下でデジタル教科書の推進プランを発表した。それに伴い A I リテラシー強化のため、小・中・高校生のためのデジタル問題を解決する「SW 未来充足センター」を全国に設置して A I 活用教育を実施する計画である。さらに、そのための倫理及び信頼性の検証・認証システムを構築し、生成型 A I の規範システムを確立することで標準化を推進するという流れ

がある。

この流れは当然の手順であるが、それならば大学出版部はそのような政策に合わせた歩みが必要ではなからうか。

政府が主導する A I の普遍化計画に合わせて、大学出版部もこのプランを活用できるようにしなければならない。他の産業よりも少々保守的な特性を持つ大学出版部は、いち早くデジタルリテラシーと A I リテラシーを高め、A I 世代に合致した出版物を供給する責任と義務がある。また、変化する時代と政策の中で権益と保護のために、プランの運用について模索をする必要がある。そして、政府の政策に対し、与えられた権利の擁護のための連帯が必要であり、大学出版協会から声を通すのも一つの方法である。

電子書籍プラットフォームの環境の構築

長い間、多くの大学出版部が電子書籍サービスに関心を持っていたが、人材育成や費用、デジタル変換の問題などで長い間先延ばしにしてきたのが事実である。放送図書出版文化院は、二〇一六年度の試験事業を皮切りに何度もの試行錯誤を経て、比較的安定した電子書籍サービスを提供しており、現在、毎年約一〇〇〇種の教材及び書籍をレンタルサービスしている。実際の電子書籍の売上は紙書籍の売上の約三％で、さほど大きな割合を占めてはいない。た

だ、収益と同じくらい価値があると考えているのは、デジタル環境の構築を通じて、学生にいつでもデジタルインフラを提供できることであり、まもなく訪れる環境の大きな変化に適應する時間が短縮できることである。

AI時代にはデジタルコンテンツがますます重要になる。大学出版部は電子書籍、オンライン学習資料、インタラクティブモジュールなど様々な形態のデジタルコンテンツを提供し、学生と教員が効果的にアクセスして活用できるようにしなければならない。結局、大学出版部は良質のコンテンツ制作はもちろん、制作したコンテンツの価値が損なわれないように良質の伝達システムのための電子書籍プラットフォームの構築及び活用が必須の時代になったのだ。

変化管理及び組織文化の造成

AI時代に対応するためには内部の変化管理及び組織文化の造成も重要であり、新しい技術に対する従業員の理解度

見えない未来を変える「いま」

〈長期主義〉倫理学のフレームワーク

マックススキル 信頼できる証拠と論理での未来予測に基づくと、未来志向の新思想。未来はもつと変えられる。千葉敏生訳 ¥3960

21世紀の戦争と政治

戦場から理論へ

シン普森 戦争が政治の直接手段と化した今、戦争概念を更新。M.ハワード序。吉田朋正訳 菊地茂雄 日本語版監修 ¥4950

国際法以後

最上敏樹 ウクライナ戦争、ガザ爆撃。かくも違反がまかり通る法とは一体何か。国際法学者による渾身の国際法批判。¥4070

自壊する「日本」の構造

日米関係・メディア・教育・原子力・新自由主義など多方向から過去・現在・未来を考える10編。長谷川・水野・島園編 ¥4180

帝国の疫病

植民地主義、奴隷制度、戦争は医学をどう変えたか

ダウンス 戦争は感染症を蔓延させた一方で、医学の発展に寄与した。疫学誕生の知られざる歴史を照らす。仲 達志訳 ¥4950

世界への信頼と希望、そして愛

林大地 「世界」概念を軸に『活動的生』を読み解き、アーレントの著作全体の核心に近づく、瑞々しい試論=エッセイ。¥4180

ゴーガンと仏教

有木宏二 悟りを重ねて輪廻転生を確信し、色彩に魂を暗示させた画家。美術と宗教学との融合。東洋から放つ新機軸。¥7260

東京文京本郷 2丁目20-7

みすず書房

tel.3814-0131 fax 3818-6435 (税込)
www.msuz.co.jp

を高めたり、実験的なアプローチを奨励したりするなどの努力が必要である。そのためにはまず、データベースの意思決定システムを検討する必要がある。各大学の特性と慣習で書籍出版とマーケティングが決定されているのであれば、データ中心の業務改善も良い選択肢となり得る。そしてデータ収集と分析を通じて読者の傾向、購買パターン、市場動向などをAIの助けを借りて把握し、戦略的な決定を下すことができる。

第二に、AI関連制度と法律を事前に検討することがある。AIモデル及びデータ使用時の倫理と法律遵守は非常に重要である。個人情報保護及び著作権侵害などの問題を慎重に検討し、関連法律及び規制を検討すれば、迅速にAI時代に適應できるだろう。

第三に、大学出版部は革新的な外部企業とパートナーシップを構築し、最新の技術やサービスの導入、マーケティング戦略の改善などで相互協力しなければならない。共に研究し経験を共有することで、より良い成果と革新的なもの

リユーションを見つづけることが可能となる。

最後に、組織文化が変わらなければならない。出版市場は変化し続けており、AI技術も急速に発展する。そのため保守的な大学出版部は継続的に変化に適應する準備が必要であり、新しい技術とトレンドを注視しながらも受け入れへの違和感がないように、柔軟性のある文化を構築しなければならぬ。

AI時代に大学出版部が最重要に考慮すべき点は、人間と機械が相互補完的に作用して最高の出版物を提供することである。

IV 生成型AIの否定的な見方

生成型AI技術は、出版業界の革新的な可能性を提示している一方で様々な否定的な見方も存在しており、それは主に人間の創作物に対する価値、著作権問題、職業喪失などに関連している。

まず、生成型AIは大量のデータを学習して新しいコンテンツを生成し業務を補助することができるが、その過程で人間の作家が持つ感性和獨創性が不足することがあり得る。例えば、AIが小説を作成する場合、その作品は機械的に作成されたものであり、人間の作家の繊細な感情表現や深い思考などを伝えることは難しく、読者が経験する文学的価値や満足感に影響を与える可能性がある。

第二に、生成型AIが自動的にコンテンツを生産する場

合、そのコンテンツの著作権が誰に属するのか明確ではない。もしAIが既に存在する作品を基に新しい内容を生産する場合、元の作品への著作権侵害問題が発生するかもしれない。法的紛争につながる可能性が高い。

第三に、大学出版部で編集者、マーケティング、相談員、物流担当など様々な立場で働く人々の役割がAIによって代替されることは否定できない。特に翻訳、編集など一部の役割はすでにAIベースのシステムに置き換えられ始めており、このような傾向が続けば出版分野で働く多くの人が職を失う危機に陥ってしまうかもしれない。

第四に、生成型AIはフェイクニュースの生成やディープフェイクなどの問題を引き起こす可能性がある。AIが現実と区別が難しい偽の情報を作り出すと、それが社会的混乱を招いたり、違法活動に利用されたりするといった可能性がある。

このような否定的な側面を考慮し、AI技術の活用に対する倫理的・法的規制と適切な管理が必要であり、大学出版部は自らこのような問題に対する改善点を政府の政策に反映させる必要がある。

V AIリテラシー能力を育てよう。

もしかしたら、生成型AIこそ一〇人以下の小規模大学出版部に適したソリューションなのかもしれない。多くの大学出版部は職員一人で書籍契約から販売まですべての仕

事を担当しているので、生成型AIは活用価値のある部下になるのではなからうか？

ChatGPTをはじめとする生成型AIはすでに産業の境界を超え、ビジネス現場のここかしこでイノベーションを起こしている。従って、急速に変化するAI時代に生き残り、さらに前進するためには、より積極的かつ能動的な姿勢で人工知能との共存を準備しなければならない。そのために、大学出版部はAIリテラシーの能力を高めなければならない。

AIリテラシーとは、AIに関連する技術と概念を理解し、それが社会と産業に与える影響を評価し、効果的に活用できる能力をいう。大学出版部でAIリテラシー能力を強化するための提言は以下の通りである。

まず、従業員にAIに関連する技術と概念に関する教育及び訓練を提供しなければならない。これはワークショップ、セミナー、オンラインコースなど様々な形で実施することができ、従業員がAI技術の仕組みを理解し、出版プロセスにどのように活用できるのかを知ること、AIをより効果的に活用できるようにする。

また、従業員がAIツールやリソースに簡単にアクセスできるようにする必要がある。そのためには、必要なソフトウェアライセンスを購入したり、クラウドベースのサービスを利用したりする方法がある。そして、実際の問題解決の過程でAIツールを使用する経験は非常に重要である。

例えば、従業員が作業フローで発生する問題を解決するために、生成型AIツールや分析ツールなどを活用するプロジェクトを計画して実行することである。

最後に、人工知能の活用は様々な倫理的な悩みを引き起こす可能性があるが、それは著作権問題から情報セキュリティまで多岐に存在している。従って、出版部内で人工知能の倫理に関する国内外のガイドラインと法律の知識を学び共有する必要がある。それには盗作や著作権関連などのネガティブな面はあるが、人工知能を通じた出版プロセスで効率を高めることもできる。

結局、すべてのプロセスにどのように活用するかは人間次第であり、その決定によって結果が大きく変わるのではなからうか。

※ 本稿は、セミナーの報告原稿を大幅に圧縮したものである。圧縮の過程で適宜表現を補った（編集部）。

韓国側報告へのコメント

古澤言太

(日本大学出版部協会 副理事長 / 九州大学出版会)

金成柱氏は、AI 自体がいかなるものなのか、まだ漠然とした知識しか持っていない私たちに、基礎的な枠組みから、個別具体的な部分までを分かりやすく整理して提示してくださった。このことは、まず現時点において、AI を何に活用できるのかを考える上でとても参考になった。

AI と協業した出版プロセスの事例についても、出版の各フェーズに分類して紹介してくださったことにより、活用の可能性と問題点を把握するのに有益で、分かりやすい提示の仕方をなさっている。続いて AI のネガティブな側面も紹介し、最後に大学出版部として何に備えなくてはならないかを考察されている。興味深い氏の発表に敬意を表したい。

発表を受けて、主に AI のネガティブな面とポジティブな面の両面についてコメントしたい。

ネガティブな面と対応について

出版業にとって、まず考えられる AI の負の側面は、著作権が侵害される可能性があり、反対に著者が使用する際には他者の著作権を侵害してしまう可能性があるということだ。もちろん、これらの人工知能は学習の途上であり日々進化していくので、AI のことを考える際には、時間を区切って考える必要があるだろう。将来的に著作権処理の問題は技術的にクリアされる可能性もあるからだ。あくまでも現時点においての話になるが、出版コンテンツが他社の権利を侵害せず、学術的ルールに則って書かれるべきものであり、そのコンテンツを著者と大学出版部の名において発行する我々の立場からすれば、執筆、翻訳、表紙の装丁においてこれを利用することは難しいのではないだろうか。

情報の偏りや、誤りがあるという点も見逃せない。つまり、現時点ではAIが提示する情報の正確性について問題があるということだ。また、AIがどこから情報を集めているのか、クローリング (Crawling) によって他者が権利を持つ情報まで収集されていないかどうか、私たちはそれを知る由もない。例えば、GoogleのサービスであるBardに人名を入力してみた。そこでその人に関する情報が出てくるケースとそうでないケースがある。私の個人的な見解では、学術論文を出しているような人は表示される場合が多い。然るべきデータベースにその人の論文が登録されており、AIも、そうした信頼のおけるデータベースから優先的に情報を収集しているのではないかという印象を受けた。

ポジティブな面と可能性について

金氏の発表においても、様々なAI活用の方法が提示されたが、まず、先日私が受講したセミナーで、オンラインメディア *SmartNews* の藤村厚夫氏が挙げられたAIの利点を以下のとおり紹介したい。

- 変換 (Transform) が得意である。
- 情報のパーソナライズに適している ↓ パーソナルな相談相手、コンサルタント的な役割を果たし得る。
- 情報の送り手と受け手が高いレベルで文脈を共有している時にコミュニケーションを進化させることに

役立つメディア。文脈を共有していれば、言葉は少なくてすむ。

これらのことを、私たちの業務に当てはめて考えると、出版企画や編集というフェーズにおいて、AIはアイデア出しの補佐やコンサルタントとして活用できるのではないだろうか。また、異分野間の研究テーマの創出にも役立つそうであり、そのことが結果として我々の刊行物となる可能性も考えられる。

以上、大雑把にAIの欠点と利点を私たちの業務に当てはめてみたが、実際のところ、AIの将来については予測不可能な部分が多い。AIの知能が人間の知能を上回る時点 (シンギュラリティ) が二〇四五年に到来するとも言われているが、果たして本当にそのような時が来るのだろうか。AIを利用して利得を得ている事業者達は、そうなった時にAIを自分たちのコントロール下に置くことができるのだろうか。AIが進化していく時、学術の世界も変容する可能性がある。コリンズとエヴァンズが書いた『専門知を再考する』(名古屋大学出版会)では、「対話型専門知」と「貢献型専門知」ということが書かれているが、「貢献型専門知」は専らAI頼みで、人間はAIと対話するだけの学問となってしまうのかもしれない。いかなる影響が私たちの業界に及ぶのか、今後注視していく必要があるだろう。

生成系 AI をどう活用するか？——日本の現状から探る

大橋裕和 (京都大学学術出版会)

京都大学学術出版会編集室・大橋裕和と申します。本日は生成系 AI と大学出版をテーマに、日本の状況を皆さんにお伝えしたいと思います。ChatGPT に代表される生成系 AI は、大手電機メーカーのパナソニック、三井住友銀行、みずほグループなどの金融大手などをはじめ、すでに日本の多くの企業で導入が始まっています。一方で、その利用にあたってはリスクが指摘されている部分もあり、日本の教育機関などでは教育・学習への利用に慎重な姿勢も見られます。日本の大学や教育機関の状況も横目に見つつ、出版業界においてどのように利用されているか、見ていきたいと思います。

大学は生成系 AI をどう見ているか？

日本の大学出版において、生成系 AI を活用しているという例はほとんど聞きません。むしろ活用できるものなの

かどうか、慎重に見ているところが多いという状況に留まります。そこで私の発表は、「大学出版」という枠に絞らず、日本の出版業界そして大学での AI の利用状況という広い枠でお話したいと思います。

さて、日本政府の AI 戦略では、二〇二五年までに全ての高校生と全学部・全学科の大学生・短大生・専門学校生に対し、AI に関する知識と技能の習得を必修化すると謳われています。先進国のなかでも非常に野心的な取り組みだということですが、では実際にその戦略を遂行する大学は生成系 AI についてどう考えているのでしょうか？

もちろん賛否両論あります。

東京大学はホームページで見解を発表しています。そこでは、生成系 AI ツールの利用を禁じてはいません。むしろその活用の可能性を積極的に探ると宣言しています。一

方で、授業での利用などは教員の判断に委ねてはいますが、レポートについては「学生本人が作成することを前提としており、生成系AIのみを用いて作成することはできない」ともしています。

京都大学は公式見解を発表していませんが、湊長博学長は二〇二三年の入学式において、新入生に向けて「AIによる文章作成には誤った情報が含まれるリスクがある」とし、「みずから『文章を書く』ということに伴う重要な検証プロセスが欠けている」と話しました。そのうえで、「皆さんには、時間をかけてじっくりと自分の文章を練り上げる習慣を、ぜひ身に付けていただきたい」と述べました。禁止はしないがリスクを把握すること、さらに自ら考え自分の言葉で語れるようになること、という趣旨であるとうかがえます。

一方、禁止の事例もあります。上智大学は「教員の許可なく使うことを禁止」し、「使用が判明した場合、厳格な対応を行う」と定めています。ほかにもネガティブな姿勢

を出している大学があります。

このように対応は大学によって様々です。文部科学省は二〇二三年七月、大学・高専における生成系AIの取り扱いについて指針をだしましたが、「正負両面をみずえて各大学、現場で対応すること……が重要だ」とし、結局、AIの活用については各大学に任されています。当然ながら、政府も明解な答えを提示することはできません。

生成系AIと著作権

では法的にはどう考えられているのでしょうか？

生成系AIは学習用の膨大なデータセットを読み取り、学習をすることで、データセットの傾向をつかみだし、入力に対してその傾向を踏まえた情報をアウトプットする、というのがおおまかな流れです。この学習用データというのは多くがWEB上のものになるのですが、著作権者に許可なくAIにデータを読み取らせる行為は、著

原子力災害により分化・複層化する地域社会

復旧復興に向けた富岡町の道程

松本行真著

定価8250円

激動する世界経済と中小企業の新動態

前田啓一・池田潔・和田聡子編著

定価46200円

大阪商業大学比較地域研究所研究叢書第二十二巻

韓国・福祉改革のダイナミズム

金早雪著

定価39600円

大阪商業大学比較地域研究所研究叢書第二十三巻

国際女性デーの世界史

起源、過去、現在、未来

伊藤セツ著

定価99000円

フラのハワイ王国史

王権と先住民文化の比較検証を通じた19世紀ハワイ史像

目黒志帆美著

定価85800円

ドイツ国家学と社会改革

クラウゼン派自然法論の成立と問題図

木村周市朗著

定価132000円

ハワイ移民漁師の生活史

上田喜三郎編著

定価63800円

御茶の水書房

〒113-0033 文京区本郷5-30-20
電話03-5684-0751



著作権に違反するのではない
か、という議論が欧米では
盛んです。

例えばアメリカのゲッ
ティ・イメージズは二〇二三
年二月、「画像生成AI
『Stable Diffusion』を相手取
り、ゲッティの画像データ
を勝手に学習に利用したと
して訴訟を起こしました。
さらに、AIによる生成画
像をゲッティに投稿するこ
とを禁止しています。ほか

にもアーティストによる集団訴訟が起きたり、著名人らに
よるAI学習の停止要請の署名活動なども起こりました。
AIへの逆風はアメリカやヨーロッパで吹き荒れています。
そんななか、日本の著作権法だけがデータセットの読み
取りを完全に許容しています。

以下、各国の状況についてまとめてみましょう。日本も
EUも、学習利用のためなら著作権法違反にはあたらない
としています。その利用目的が営利でも構いません。ただ
しEUでは「オプトアウト」、つまりデータの権利者が利
用に対して拒否を表明した場合は、利用から外す義務があ
ります。日本はこのオプトアウトもありません。さらに日

本では、違法サイトのデータも学習のためなら利用しても
構わないとされます。さすがにこの取り扱いについては見
直すべきだという声も高まっています。

ところで、そもそもAIの生成物は「著作物」なのでし
ょうか？ 日本では、人間とAIによる共創は著作物とさ
れています。しかしAI単独では認めないという方針です。
アメリカでも「創作は人間の特権である」という判決が出
ており、著作物性は否定されています。EUも同じように
著作性はなしです。中国はどちらも判例があり、まだ方向
が定まっていません。このように対応は各国バラバラ、変
化の渦中にあります。

生成系AIは出版を変える、というけれど……

さて、社会の状況についてはこのあたりにして、出版と
AIについて考えていきます。

すでに書籍やコンテンツの著作者はAIを活用しはじめ
ており、日本ではChatGPTを使って書かれた本も出てきて
います。しかし、ChatGPTだけで書いた、というのは出版
物のなかには基本はないようです。まだまだ市場に提供で
きるほどのクオリティをChatGPTだけでは出せません。む
しろ書き手の活用としてよく言われるのが「ブレインスト
ーミング」です。企画や構成を練るうえでChatGPTとの対
話は非常に有用だといいます。また文章に小見出しを入れ
てくれる、差別語などを指摘したり別の表現を教えてくれ

る、未完成の原稿を勝手に埋めてくれるなど、企画から文章の補完まで、うまく使えば強力な文章生成ツールになります。えます。

文体の変換も可能です。例えば、「村上春樹風にして」と言えば一気に文体や調子を変えることもできますし、小学生向けに書き直すなどということも容易です。

次に、われわれ編集者がどう活用できるか。文章の校正に使えるというのは容易に想像が付きませんが、さらには表紙や挿絵、図や表などを編集者自身がAIを使って手軽に作ることもできます。

加えて、ChatGPTが発展すれば編集者やアシスタントがいらなくなるとよくいわれますが、むしろ編集者が創作者になって出版社の出したいコンテンツをどんどん実現していくという未来もあるかもしれません。では、本当に私たちの編集業務全体がぐっと楽になるのか……それは難しい問題です。たしかに表記統一や文献整理には一定の力を発揮しますが、文章生成の精度はChatGPTでもいまだに英

語で八五・六%、日本語だと七九・九%というのが検証結果です。そのままお任せするというわけにはいきません。さらに、企画を考えたり著者とやり取りしたりするのをまだAIに任せられないのは自明でしょう。

営業面では、本の宣伝文、書棚のPOPづくり、WEBページの構築など、出版社でも書店でも宣伝に一部利用されつつあります。でも気を付けなければいけないのは、AIがフエイクを入れてくることです。AIが平気で「ウソ」をつくことはご存じだと思います。書籍内容の要約に辻褃合わせの嘘がまじったり、実在しない文献情報が入るというケースもあります。こちらもお任せというわけにはいかず、リスクは常に考慮しておかねばなりません。

最後に読者はどうでしょうか。AIは読書を変えらるともいわれます。例えば「Barnio」という読書用アプリがあります。これは書物をAI化し対話することを可能にします。質問すればその本の著者と話をするようにAIが答えてくれます。さらに、注釈をつけたり読み方をアドバ

(新刊)

記憶と歴史の人類学

風間計博・丹羽典生編 東南アジア・オセアニア島嶼部における戦争・移住・他者接触の経験。史実と虚偽のあいまいに立つ、注目の論集。3960円

中国民族誌学

100年の軌跡と展望

河合洋尚・奈良雅史・韓敏編 中国を対象とした膨大な人類学的研究を総覧。地域社会や国家、民族への多様な眼差しを俯瞰。3960円

西川寛生

「戦時期ベトナム日記」

武内房司・宮沢千尋編 戦時期日本と東南アジアの関係を知る史料、全文翻刻。付・解説/索引。学習院大学東洋文化研究叢書。6600円

土楼

小林宏至著 円い空の下で暮らす福建客家の民族誌。「宗族・客家が土楼を生み出した」という従来の発想を覆す、新たな視点。5500円

アルバート湖岸 の生活誌

田原範子著 ウガンダ共和国北西部のアジール。動乱で追いやられた人びとが住む湖畔は驚くほど出自や生業からフリーだった。4400円

バングラデシュ農村 を生きる

松岡悦子編 女性・NGO・グローバルヘルス。ミクロな観察やエスノグラフィで見つめる、グローバルな課題としての〈健康〉。3300円

風響社

〒114-0014 東京都北区田端 4-14-9
〒 03-3828-9249 (定価は税込)
URL: <http://www.fukyo.co.jp>

イスしたりもしてくれます。これはもしかしたら、私たちが刊行するような研究書の読者のニーズには適した読書の形かもしれない。

さらに、読者が読みたい本を自分でつくってしまいうことも可能です。絵本や小説を作成するA Iアプリも広がり、読者かもはや書籍制作のプロデューサーとなりえる状況にあります。

著者や読者がそのまま出版社になれる、セルフ電子出版もできる。であるなら、これから私達のような出版社は不要になるのだろうか？……という疑問は湧きます。それでも先ほど紹介したように、A Iが一〇〇%書いた本はまだ売り物になりません。A Iと共創しているある作家はこう言います。

「A Iは便利だが、A Iの書いたもので感動したことは一度もない」

まだクリエイティブティにおいては人間には一日の長があります。出版社や編集者がいる意義だつてまだまだあると信じているのです。今後どうなっていくのか、不安はありますが……。

揺さぶられながらも

それを踏まえて、我々大学出版はどうでしょうか？

我々は、研究成果を発信する、また学ぶ人の助けとなる

ものを提供する、というのが使命です。しかし、研究者の論文だからといってそのまま右から左に流すわけではありません。京都大学学術出版会では、学術性について精査してからでない出版のプロセスにはのせません。編集室でも論文を読んだうえ、他の研究者に査読をお願いしたり、審査会議にかけるなど、いくつかのチェックポイントがあります。

A Iの登場によって、この査読システムが今後成立しうるのかどうか、大きな懸念が生じています。

これからは、論文を書いた人がA Iだったということもありうるかもしれません。論文の下書きや文献要約にはすでに利用されていますし、これからより多方面に利用されることでしょう。

A Iで論文を書くこと、そこには「責任」の問題があります。その論文の本当の意味での著者は誰か、研究の成果をきちんと表現しているのか……また気づかないうちにA Iが著者の主張を拡張したり、わからないように巧みにフェイクを混ぜるかもしれません。著者が意図した以外の内容が混ざってしまったとき、著者はどこまでを「自分の主張だ」と言えるのでしょうか？そして評価する側からすると、それが著者の主張なのか、A Iによるものなのかはおそらく区別はできないでしょう。

OpenAI社は、A Iが生成した文章かどうかを検出するツールを用いても、確実にA Iかどうか判断はできないと



表明しています。OpenAI社のツールでは、シェイクスピアやドストエフスキーの文章を、「AIが書いた文章だ」と判断してしまった例もあります。つまり、私達にはどこまでが本人が書いたもので、どこまでがAIが書いたものなのかはわからないのです。もしかすると、著者自身にも自分とAIの区別がつかないかもしれない……。著者や出版社がきちんと責任を持っていないものを世に出してしまう危険性は、これからはより高まる可能性があります。

そもそも研究者が自分で発信できる世の中で、われわれ出版社はどれだけ必要とされるのか。これも大きく私たちを揺さぶるところです。研究者らの論文を、どのくらい付加価値をつけて「本」として編みなおすことができるのか。その付加価値がなければサービスタクとして必要とされなくなる、という未来はもうすでに始まっています。そういう意味で、著者との「協創」の場を我々はどう作れるのか、AI以上の価値をどう提供できるのか。それは大きな課題と

して、我々にのしかかってきているように感じます。

AIは指数関数的に発展しています。OpenAIの開発者たち自身が、ChatGPTがなぜこれほどの能力を発揮できるかわからない、と言います。開発者すら追いつけない驚異的な発展は、たしかに我々の社会、そして常識を大きく塗り替えるでしょう。そのなかで私たち大学出版がどうふるまうのか。さっさとChatGPTに聞いてみました。答えはこうです。

AIの発展により出版業界全体が変化していますが、出版社や編集者の存在が完全に不要になるわけではありません。……まだまだ人間の創造性や判断力が必要な側面も多く存在します。大学出版は人間の専門知識と創造性に基づく要素を重視すべきです。AIはツールとして活用し、教育の品質向上と効率化に貢献する一方、……変化する教育環境に適応する柔軟性を持つべきです。

AIに励まされたところで、発表を終えたいと思います。

日本側報告へのコメント

金恵智 (蔚山大学校出版部)

生成型 AI が社会的に話題になっており、教育現場においても、大学だけではなく小中高校まで学生の ChatGTP の活用が悩みとして現れています。生成型 AI がまだ出版では積極的に適用されていらないことが現実のようです。しかし、生成型 AI を見ないふりをする状況でもないようです。大橋裕和氏の発表の内容を見ると、日本でも生成型 AI が徐々に出版に入り込んでいるようです。今回のテーマは私たち皆で考えるべき内容のようです。

最近の韓国でも、韓国文学翻訳院で開催した「韓国文学翻訳賞」の縦スクロールコミック部門の新人賞受賞者は韓国語が流暢でなく、受賞作品も AI による翻訳結果であったことが明らかになり、このような AI 翻訳にどのように対処すべきか問題が提起されたことがあります。韓国文学翻訳院はこの出来事を機に新人賞の公募制度の

改善と共に AI との協業範囲に関して政策的な議論を行い、今後の翻訳新人賞の応募者は人工知能 (AI) 翻訳機の助けを借りた作品を提出してはいけないという内容を公募要項に含めました。

翻訳院は「機械との共同翻訳」を禁止する方針について、「新人翻訳家を発掘し、彼らが翻訳を継続する機会を提供するという賞の趣旨に合わせて、倫理性の強化が必要である」と説明しました。翻訳新人賞は翻訳家としての資質と力量を検証する初の試みであるだけに AI 翻訳は除外されるべきとみたわけです。

これは今後の出版著作物にも起こりうることだと思えます。人と AI の共同出版をどこまで認めて、それに対する著作権はどうなるのか。これから AI 技術がより発展すれば、AI が人の能力を凌駕するのではないかという心配もあります。このようななか、今年初めに

ChatGTPが本を出版し、韓国内で話題になりました。

以下、日本の状況に関する簡単な質問で私のコメントを終えたいと思います。

- ① 日本の場合、ChatGTPなど生成型人工知能（AI）と関連して議論になった事例がありますか。
- ② そして、AIと関連した著作権の侵害を防ぐために、日本国内の出版社または大学出版社で用意している具体的な方策を知りたいです。
- ③ 次に、日本ではAIが出版した本があるかどうか、あればその事例を簡単に紹介してください。

大学出版部 ニュース

表示価格は税込です

大学出版部協会・活動報告

- 一月九日(金) 一四時〇〇分
J-COPYセミナー 開催※
- 一月九日(金) 一五時〇〇分
第九回 営業部会 開催※
- 一月二六日(金) 一五時三〇分
第七回 理事会 開催※
- 二月九日(金) 一四時〇〇分
第一〇回 営業部会 開催※
- 二月九日(金) 一五時〇〇分
NTT-EDXセミナー 開催※
- 二月一五日(木) 一四時〇〇分
第五回 編集部会 開催※
- 二月一六日(金) 一五時三〇分
第八回 理事会 開催※
- 三月一日(金) 一四時〇〇分
第一一回 営業部会 開催※
- 三月一五日(金) 一五時三〇分
第九回 理事会 開催※

(※ 理事会・部会はZOOMでの開催)

北海道大学出版会

▼小松謙之・伊藤ふくお著『日本産ゴキブリ全種図鑑』(四六判・二〇〇頁・四九五〇円) 日本に生息・記録されている全65種7亜種(二〇二三年三月七日現在)に、最近人気のあるベットローチ8種を加えて73種7亜種を収録したカラー図鑑。農学部・理学部・薬学部のある大学の図書館や自然史系博物館、保健所、製薬会社などの図書室必備書。

▼李媛著『空海の字書―人文情報学から見た篆隸万象名義』(A5判・三三二頁・一九八〇〇円) 日本現存最古の漢字字書である高山寺本『篆隸万象名義』に情報学、書物学、文字学の三つの視点からアプローチする。原本『玉篇』と『大広益会玉篇』も視野に入れ、古写本を電子テキスト化し、日中の研究の成果を統合して論じる。

▼福地保馬著『労働と健康―デーゼント・ワークの実現を目指して』(A5判・二二四頁・四四〇〇円) 人間らしい労働の実現を求めて「労働者の健康問題」「公害・環境問題」に労働者・住民とともに取り組んできた著者の研究の集大成。

弘前大学出版会

▼郡千寿子/多田恵実/バーマン・シャリー・ジョイ著『コオリ先生のごとば探求紀行―Professor Kohri's Travels: A Quest for Words』(A5判・一八八頁・一九八〇円) 新聞連載の好評エッセイが一書になりました。本書では、普段、何気なく使っていることばの魅力な物語を紹介しています。時には昔の古典を紐解き、時には他言語へ思いを馳せる――コオリ先生が時空を越えて、その謎に迫ります。ことばについて歴史や文化とともに学ぶ中で、読者の皆さんには、思いもよらない真相に驚きと発見があるかもしれません。日本語を母語としない人たちにも楽しんでいただけるよう、本書には英語版と注釈が付いています。知っているようで知らない日本語の不思議な世界を一緒に巡ってみませんか？



東北大学出版会

▼谷内一彦著『善玉』としてのヒスタミン―花粉症から薬の作用を考える』（B5判・三六頁・二二〇〇円）ヒスタミンは、現代の薬理学の礎を築いたノーベル賞受賞者のHenry Daleにより発見され、アレルギー反応への関与が見出されて以来、その生理作用について多くの研究が行われている。ヒスタミンはアレルギーの起因物質として一般には「悪玉」と考えられているが、最近の研究からヒスタミンの生理作用は生体にとって有益であることがわかった。春になると多くの人々が悩む花粉症を例に、薬が持つ薬理作用を考えながら「善玉」としてのヒスタミンの機能を紹介する。

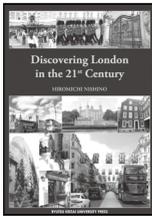
▼田中真理・川住隆一・野崎義和・横田晋務編『知的障害者とともに大学で学ぶ―東北大学オープンカレッジ「杜のまなびや」の取り組み』（A5判・二五四頁・三五二〇円）東北大学大学院教育学研究科教育ネットワークセンターの先端的プロジェクト型研究として開講された、知的障害者の生涯学習教育の公開講座をもとに、その準備や概要、構成員の学び合いの成果などを振り返る。

流通経済大学出版会

▼植村秀樹著『平和国家の戦争論―今こそクラウゼヴィッツ「戦争論」を読む』（A5判・三六〇頁・四四〇〇円）戦後日本の平和主義を支えていたものは何か。本書は、日本がこれからも平和国家であり続けるための戦争論のすすめである。



▼西野博道著『Discovering London in the 21st Century』（A5判・一六八頁・一九八〇円）本書は、英国ロンドンの人気観光スポット30か所を取り上げ、その歴史の変遷、見どころ、最新情報をエッセイ風に解説、あるいは学術的、哲学的な考察を試み、英国文化の本質に迫るところを意図して執筆した英文書籍。



聖徳大学出版会

▼聖徳大学特別支援教育研究室編『一人ひとりのニーズに応える保育と教育―みんなを進める特別支援改訂3版』（A5判・二六七頁・一七六〇円）初学者のための特別支援教育本。コンパクトなハンディサイズに、全障害について、子どもの理解と指導・支援に必要な基礎的知識を盛り込んだ一冊。

▼聖徳大学児童学部児童学科編『新しい児童学への招待』（B5判・一〇三頁・一三五九円）幼児教育・保育・文化・心理の教授陣四〇名が協働制作した入門書。薄手の冊子に児童学の様々な素材が凝縮され学びやすい。

▼塩美佐枝・古川寿子・重安智子・井口厚子・関口明子著『教職実践演習―幼稚園教諭・保育士・保育教諭を目指すために』（B5判・一四〇頁・一七六〇円）幼児教育に携わるために学んできた総まとめとして、いじめ、食育、特別支援教育や、幼・小連携、家庭や地域との連携の大切さを具体例を挙げて説明。総合的な実践的指導力の基礎を修得できる一冊。

慶應義塾大学出版会

▼藤原翔太著『ブリュメール18日―革命家たちの恐怖と欲望』(四六判・二〇〇頁・二六四〇円) ナポレオンはなぜ権力の座に担ぎ上げられたのか。革命後の民主主義から新たな権威主義体制が誕生していく過程を明らかにする。

▼ギャレット・ジョーンズ著『移民は世界をどう変えてきたか』(四六判・二八八頁・三〇〇〇円) 移民がもたらす文化は移民先の社会をどう変えたのか、中国系移民は経済成長につながるか、移民の多様性はよいことか等、重要テーマを世界的な規模の計量分析で考察する。

▼井伊雅子著『地域医療の経済学』(四六判・四〇〇頁・三三〇〇円) 地域住民が安心して暮らすための医療情報・サービス、診療の質の問題、医療情報の開示健康に対する理解度など、地域医療の観点から丁寧に解説した新しい医療経済論。

▼田中瑛著『へ声なき声』のジャーナリズム』(四六判・二八八頁・三四〇〇円) 誰もが情報を発信し、情報が氾濫するこの時代に、ジャーナリストは少数者の声をいかに掬い上げ、活性化させるべきなのか。SNS時代のジャーナリズム論。

専修大学出版局

▼遠山浩著『中堅・中小企業のイノベーション創出と産業集積地の将来―SDGs・カーボンニュートラルをふまえた検討』(A5判・二五〇頁・三七四〇円) 『都市型産業集積広域化下での中小製造業経営の在り方』と「カーボンニュートラル、SDGsに中小製造業がどのように関わるべきか」、二つの研究テーマを進展させ考察する。

▼専修大学今村法律研究室編『神兵隊事件 別巻十二』(A5判・四二八頁・六一六〇円) 昭和八年七月のクーデター未遂事件の資料集の第十二巻。「神兵隊事件予審訊問調書写」より、被告人五名の訊問調書を収録。

▼専修大学出版企画委員会編『改訂版新・知のツールボックス―新入生のための学び方サポートブック』(四六判・二〇四頁・九九〇円) ノートの取り方、資料の探し方、文章読解、レポートの書き方、SNS……学びの必須事項を解説した、導入教育テキストのベストセラー。二〇一八年の新装版から、令和に相応しい内容として大幅にリニューアル、読みやすくコンパクトな改訂版として刊行。

玉川大学出版部

▼登本洋子・伊藤史織・後藤芳文著『改訂版 学びの技―14歳からの探究・論文・プレゼンテーション』(A5判・一六八頁・一九八〇円) 中学・高校生の探究学習や大学生の初年次教育に最適のテキスト。研究テーマの決め方から情報収集の方法、証拠収集シートや探究マップなどのツールを活用した論文の書き方、プレゼンテーションの効果的な工夫までを網羅している。今回の大幅改訂にあたって、「論題設定」や「論理的思考」に関する部分を大きく見直した。



▼竹中喜一編著『学習成果の評価』(A5判・二〇四頁・二二〇〇円) 学習成果の評価と評価結果の活用方法について実践的な知識を提示し、大学教育の質保証に関わる教職員を支援する。特にカリキュラムにおける学習成果に着目し、設計から改善までの流れを記述。また、多様な実践方法を提示し、読者が現場でアレンジできるヒントも盛り込む。

中央大学出版部

▼トーマス・J・ミチエリ著／高橋直哉訳『**刑罰のパラドックス**』（A5判・三二四頁・四一八〇円）経済学の視点から刑事司法システムを多面的に分析した本。刑罰に関する抑止と応報の対比を軸にして刑事司法政策上の重要トピックに考察を加える。学際的魅力にあふれた刑事法研究書。

▼丸山修平著『**続・ドイツ有限責任事業会社（UG）**』（A5判・二九六頁・三八五〇円）ドイツで二〇〇八年に制度化された「有限責任事業会社（UG）」に関し、他の法領域、とりわけ公益法人法や弁護士法の改正との関係等、二〇一五年以降に著わした九つの論稿、新たに書き下ろした二つの論稿を収録する。

▼小林謙一編著『**考古資料と歴史史料**』（A5判・三三二頁・七〇四〇円）物質文化研究における考古学・文献史学の学際研究による歴史復元の途を探るとともに、両者の研究法の違いを取り上げ、研究の将来を見通す。

東京大学出版会

▼末木文美士・中島隆博責任編集『**日本の近代思想を読みなおす**』（全15巻）まもなく明治一六〇年／戦後八〇年を迎え、歴史上の大きな転機に立つ時代状況を深く読み解くため、気鋭の執筆陣が日本の近代思想の新たな読みなおしに挑戦したシリーズ。近代思想の名文を精選してそのエッセンスを紹介し、執筆者による解説を収録する。（以下既刊）

中島隆博著『**1 哲学**』（四六二〇円）末木文美士著『**2 日本**』（四九五〇円）稲賀繁美著『**3 美／藝術**』（五九四〇円）水溜真由美著『**4 女性／ジェンダー**』（五五〇〇円）

▼会田薫子編『**ACPの考え方と実践－インドオブライフ・ケアの臨床倫理**』（B5判、一九二頁・三〇八〇円）ひとりひとりを尊重し、人生の最終段階に至るまで患者の意思決定を支援するための方法（ACP）を、事例を交えて解説。

▼杉山将著『**教養としての機械学習**』（四六判・一六八頁・二八六〇円）AIのベイスのひとつである機械学習を、基礎から最先端の研究まで初心者にも分かりやすく説き明かした入門書。

東京電機大学出版局

▼土肥健純・佐々木良一・肥田泰幸監修『**臨床工学テクニスト 医療機器運用管理のための情報セキュリティ**』（A5判・一四四頁・二九七〇円）ネットワークに繋がる医療機器を操作・管理するために必要なサイバーセキュリティの基礎知識と実務における注意点を解説。医療用機器の分類ごとに必要なセキュリティ対策を整理し、図を多く用いて解説。医療場面ごとのセキュリティ対策事項をまとめたカラー図解のデータを提供。臨床工学校士およびそれを目指す学生に向けた教科書。

▼田中博・川喜田佑介著『**よくわかるワイヤレス通信 第2版**』（A5判・二二四頁・二九七〇円）ワイヤレス通信技術に関する教科書の改訂版。今では一般的に利用される無線LANシステムのWi-Fi、モノとインターネットを融合した技術であるIoT、次世代通信システムの5Gなどの最新技術を解説し、今後の技術動向についても触れる。多くの演習問題を掲載するとともに、詳しい解答、書籍内で用いた図版画像をWEBからダウンロード可能。

法政大学出版局

- ▼岡本和子編『暴力の表象空間―ヨーロッパ近現代の危機を読み解く』（四六判・三九六頁・四〇〇〇円）世界は暴力に満ちている。政治、文学、スポーツなど多様な事例から暴力の根源を問う。
- ▼J・F・リオタール著／松葉類訳『レヴィナスの論理』（四六判・二七四頁・三三〇〇円）レヴィナスより継承した（他者）という問題を生涯にわたり考究しつづけたリオタールによるレヴィナス論集。
- ▼中村高朗・虎岩直子編著『記憶と芸術―ラビントスの笈』（四六判・四一六頁・三二〇〇円）記憶の断片から芸術のはじまりを紡ぎ出す。文学・美術領域の第一線の論者たちが織りなす知の饗宴。
- ▼古井義昭著『誘惑する他者―メルヴィル文学の倫理』（A5判・三〇〇頁・三二〇〇円）孤独や共同体や帝国主義的暴力の問題など、書くこと／読むことの根源に関わるテーマを徹底的に掘り下げる。
- ▼李舜志著『ベルナルル・ステイグレルの哲学―人新世の技術論』（四六判・二三八頁・二二〇〇円）『技術と時間』『象徴の貧困』等で著名な哲学者への初の入門書。資本主義と環境危機を問い直す。

武蔵野大学出版会

- ▼下條慎一著『政治学原論講義』（A5判・二三二頁・二九七〇円）自由主義や民主主義、平和に関する思想や、自然権を否定する保守主義、独裁や戦争の理論等を扱うことで、憲法の基本原理の定着を促進し、それを世界にひろげることをお願いしている。



- ▼武蔵野大学サステナビリティ学科編著『キーワードで知るサステナビリティ』（A5判・二〇八頁・二二〇〇円）「サステナビリティ学」において重要なキーワードを抽出・整理し、その定義や重要性、応用・実践例等を解説している。



武蔵野美術大学出版局

- ▼富井大裕・藤井匡・山本一弥編『彫刻の教科書2―わからない彫刻 みる編』（A5判・二四八頁・二六四〇円）他分野と交わり、容易には捉えきれないほどの広がりをもつ、時に「わからない」ものとされる現代の「彫刻」について、様々な立場で彫刻に携わる24人の著者が、「彫刻をみる」＝「彫刻を展示する」「彫刻を記録する」「彫刻を考える」という面から各々の視点で考察し、体験に基づいたリアルな言葉で綴る。彫刻がいかに「わからない」もの＝多様であるかを理解し、「彫刻とは何か」を考える出発点となる一冊。ムサビ発、彫刻の教科書第二弾。
- ▼白尾隆太郎・杉山衛編著『新訂 イメージ編集』（B5判・八〇頁・三〇八〇円）比較、反復、反転、転置、拡大縮小、表象、省略と純化、変換。八つのテーマのもと古今東西約一〇〇の「イメージ」を大胆かつ創造的に分類、解説し、その意味や目的に迫る。「イメージ」の本質は、芸術の一層深い理解への足がかりとなる様々なイメージで溢れかえる現代に、美術やデザインにかかわり、考える、すべての人のためのレファレンスブック。

早稲田大学出版部

▼正井章笹著『ドイツにおける労働者の共同決定―歴史と制度』（A5判・八〇〇頁・九九〇〇円）ドイツにはコーポレートガバナンスの一類型として、会社経営の意思決定に労働者の半数を代表する者が参画する「労働者共同決定制度」が存在する。この分野の第一人者が同制度の歴史的経緯、現状と問題点をまとめる。

▼青木弘著『横穴式石室の築造技術と造墓集団』（A5判・三二〇頁・四四〇〇円）およそ六世紀から七世紀にかけて、各地で膨大な数が築かれた横穴式石室。群馬県と埼玉県の間、横穴式石室を対象にした分析を通じ、古墳の階層性を成立させた築造技術体系と造墓集団に迫る。

▼早稲田大学理工学術院統合事務・技術センター編『勇氣と覚悟―視覚障害学生の実験教育における技術支援』（A5判・三五二頁・四四〇〇円）二〇一九年、早大先進理工学部一人の全盲の学生が入学した。どのようにすれば全盲の学生に大学の実験科目を履修してもらえるのかこの課題に対応した、早大理工学術院統合事務・技術センター技術部職員たちの視点からつづった、現場からの報告。

関東学院大学出版会

▼パプテスト研究プロジェクト編『パプテストの歴史と思想研究⑦』（A5判・一八二頁・二〇九〇円）〈関東学院大学（キリスト教と文化研究所）が発表するパプテスト研究論文集の最新号。第一の本学専任教員によるパプテスト研究論文においては、第一章で日本におけるパプテストの歴史的課題（神学校設立問題、東西パプテスト合同問題）が新たな視点と資料から再考察されている。第二章では、熊野清樹が福岡の西南学院から東京の小石川パプテスト教会に牧師として転じた時期から日本における東西パプテストの合同に関わりを持った時期について紹介している。また第二章においては、「パプテストの日本宣教一五〇周年」企画として、現在の日本におけるパプテスト研究の歩みと担い手を紹介する。〈目次〉第一部 研究論文 第一章 横浜パプテスト神学校設立に関する一考察／第二章 熊野清樹を通して見る日本のパプテスト（4） 第二部 日本におけるパプテスト研究の歩みと担い手（寄稿）

名古屋大学出版会

▼羽賀祥二著『軍国の文化―日清戦争・ナシヨナリズム・地域社会』全二巻（A5判・上・四七八頁・六九三〇円／下・六四〇頁・八〇三〇円）「国民的戦争」を支えた制度と心性をあまねく探究し、「大量死の時代」が生んだ戦争協同体の構造を解明した労作。

▼桑原夏子著『聖母の晩年―中世・ルネサンス期イタリアにおける画像の系譜』（A5判・九〇四頁・一六五〇〇円）地中海圏の聖堂壁画からチマブーエやドゥッチョ、ジョットらの作品まで、聖母マリアの最期をめぐる美術史。

▼佐藤憲昭・石政勉著『準結晶の科学―構造と物性』（A5判・三五八頁・五九四〇円）準周期性を持つ不思議な物質は、どんな振舞いをするのか。合金やセラミックス・高分子など多様な系で生じる準結晶を基礎から解説。

▼アレックス・シザール著／柴田和宏訳／伊藤憲二解説『科学ジャーナルの成立』（A5判・三七六頁・六三八〇円）商業化やオープン化から、査読、研究不正まで――。学術雑誌の歴史から、科学のあり方を問い直す。待望の邦訳。

名古屋外国語大学出版会

▼根無一信著『はじめての比較宗教学』（A5判・二四四頁・二二〇〇円）宗教は哲学の一種の表現であり、重要なのは、宗教について自力で考察する力を身に付けること。楽しく学べる宗教学入門。（二〇二三年九月刊行）

▼梅垣昌子著『フォークナー 語りの力―その創造性の起源へ』（A5判・四七〇頁・四九五〇円）「フォークナーが作家として何より重きを置いていたのは、人間の魂の深奥から発せられる生の叫び声だった……」著者が、半生をかけてまとめた精密な論考。（二〇二三年一〇月刊行）

▼今泉景子著『ホスピタリティを磨く20のレッスン』（A5判・一三六頁・一七六〇円）元空港グランドスタッフで今は大衆で教える著者が、実際に仕事で学んだこと、体験談などを紹介しながらホスピタリティについてレッスン形式でまとめた実践の書。（二〇二四年三月刊行）



京都大学学術出版会

▼松本悠子著『戦場に忘れられた人々―人種とジェンダーの大戦史』（A5判・三三二頁・四一八〇円）戦場の歴史から抜け落ちていった女性たち、黒人兵たち「原住民」労働者たち、戦場に遺体がさらされたままの無名の人々。人種・ジェンダー認識の起源としての第一次世界大戦を描き、砲撃がきこえた人々の声に耳を澄ます、戦場の社会史。

▼太田出著『統治されない技法―太湖に浮かぶ〈梁山泊〉』（A5判・五三二頁・六〇五〇円）中国の太湖流域に住み、かつて「網船鬼」と呼ばれた「統治しがた」漁民たちは、高地民とは異なるもう一つの「ゾミア」であった。本書は、中央政府の支配から逃れ、歴史文献から漏れた漁民の生活を現地調査によって探り、新たな地域社会論の構築を目指す。

▼岡崎宏樹著『作田啓一 生成の社会学』（A5判・三九四頁・四一八〇円）戦後日本の社会学を牽引した作田は、一貫してこの世の非合理性・リアルを語り得る「もう一つの社会学」を求めてきた。パーチャルとの区別が失われた世界に、生の実感を得るための希望の思考とは？

大阪大学出版会

▼木場安莉沙著『日米社会と「多層的」少数者のデイスコース分析―性的・民族的アイデンティティの「はざま」で』（A5判・二〇八頁・四五〇円）日米社会に生きる性的／民族的少数者のナラティブに表れるデイスコースの交錯と、アイデンティティの構築を考察。

▼三好庸隆著『オールドニュータウンを活かす！―理想都市の系譜から多様な暮らし方の実現へ』（A5判・三五二頁・三九六〇円）田園都市からの系譜とともに日本のニュータウンを類型化、現場での実体験を交えつつオールドニュータウン問題について論じる。

▼平光文乃著『ブルースト 創造の部屋』（A5判・二二八頁・六六〇〇円）ブルーストにとって寢室は、世界を観察し、夢想に浸ることのできる作品創造の源泉であった。文学者にとつての「部屋」の重要性を、同時代の作家や芸術潮流と関連づけて論じ、作品における「部屋」の機能を精緻に分析する。

関西大学出版部

▼佐立治人訳注『吳訥撰・若山拯訓詁』**祥刑要覽**の訳注―旧中国の裁判の教訓と逸話』（A5判上製・三一六頁・三二五〇円）『祥刑要覽』は明の役人・呉訥が正しい裁判を行うための指針とする目的で、経書や歴史書の中から裁判の教訓となる文章を選び出して編集したものである。江戸時代の日本でも幾度か刊行されていた。本書はその訳注書であり、法律や裁判に対する古い時代の中国人の考えを会得できる。

▼石崎博志著『現代中国語の文語』（A5判上製・二七八頁・四八四〇円）学術的な洞察と実践的な応用のバランスを取りながら、法律や食品包装など実用的な文語の理解を助け、比喩やプロソディ、告知文のリズムなど言語の認知的側面を解説。また、中国語の標点符号の適切な使用、若年層の文語利用の割合など、多岐にわたる中国語の文語の世界を解く。



関西学院大学出版会

▼関西学院大学震災の記録プロジェクト金菱清（ゼミナル）編『五感でとらえなおす 阪神・淡路大震災の記憶』（四六判・一四六頁・二〇九〇円）「匂う」「味わう」「触れる」「見えない」「聴く」といった視覚以外の感覚を通じて阪神・淡路大震災を読み解く。震災当事者に丁寧聞き取り調査をした関西学院大学社会学部金菱ゼミの取り組み。

▼ハワード・デイビス、ジェイムズ・ダウソ、ステイブ・マーティン著／石原俊彦監訳『ブレア政権の公検査レジーム』（A5判・一七八頁・六三八〇円）ブレア政権下で英国政府が実施した地方自治体外部検査体制。変遷を詳細に記述した調査研究報告書二冊を日本語翻訳して一冊に取りまとめた。

▼李建志著 K・G・リぶれつと No.58 『令和マンションブーム』から考える日本の住宅論―日本社会にとっての「家」』（A5判・一六〇頁・一七六〇円）不動産を購入するなら価格が暴落しない物件を選びたい。研究的な目線と投資家としての目線をあわせて展開する、実践的住宅論。

九州大学出版会

▼翁文静著『中国産後ケア文化の変容―産業化する伝統文化とその担い手たち』（A5判・一八八頁・四七三〇円）中国都市部における伝統的な産後の養生習慣「月子」と、それを担う家事労働者である「月嫂」の実践を描く。

▼畠中茂朗著『明治日本のローカル・アントレプレナー―旧長州藩士が担った地方の産業化と近代企業の創成』（A5判・三三八頁・六六〇〇円）長州・山口で地域振興に生涯を捧げた地方企業家の実像に迫り、明治期の産業化を検証する。

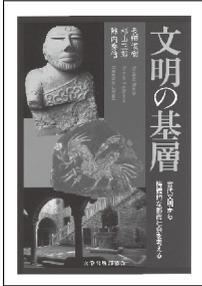
▼中世古貴彦著『アメリカ高等教育のガバナンス改革―カリフォルニア大学の自律と統制をめぐる葛藤』（A5判・二五二頁・三九六〇円）カリフォルニア大学と州政府の間で繰り広げられた、大学の自治と政府の統制をめぐる問題を探る。

▼深田智著『溶融塩の性質と利用―新型溶融塩原子炉の実用をめざして』（B5判・三三四頁・九九〇〇円）溶融塩の基礎物性と多岐にわたる利用に関する国内外の最新の研究成果のとりまとめ。

大学出版部協会・ブックレット

大学出版部協会 発行／東京大学出版会 発売【2015年7月刊】

2014年5月に千代田区立日比谷図書文化館で開催された市民シンポジウム「文明の基層」(総合地球環境学研究所・京都大学学術出版会・大学出版部協会 主催／活字文化推進会議 後援)の内容をブックレット化しました。



長田俊樹 おさだとしき(総合地球環境学研究所名誉教授、神戸市外国語大学客員教授)
杉山三郎 すぎやまさぶろう(愛知県立大学大学院特任教授、アリゾナ州立大学人類学部教授)
陣内秀信 じんないひでのぶ(法政大学デザイン工学部教授)

文明の基層

古代文明から持続的な都市社会を考える

A5判・80頁／定価(本体1,200円+税) ISBN978-4-13-003152-3

古代都市のイメージは大きく変わりつつある。インダス文明の諸都市のゆるやかなネットワーク、中米の古代最大都市テオティワカンでの新しい発見。人はなぜ都市を作ってきたのか、その歴史的基層を中世ヨーロッパのヴェネツィアと比較しながら、改めて都市の魅力と未来への可能性を探る。大学出版部協会ブックレット第3弾。

〈主要目次〉

第一章 インダス文明：ネットワーク都市——中央集権的文明観を覆す(長田俊樹)

「大河文明」は本当か?—広大なインダス文明／インダス文字とインダス印章／草原の遺跡、海岸沿いの遺跡—大河から離れて／砂漠の遺跡の謎／「城塞」と「パスポート」—都市ネットワーク論に向けて／墓から見えるもの—格差の不在／砂丘が先か、文明が先か／インダス文明は大河文明ではなかった—農業と水害の視点／古代文明観を見直す—「穀物倉」と「アリア人侵入説」／文明の衰退について考える／ゆるやかなネットワークの存在／都市社会をどう見るか—中央集権的文明観からの解放

第二章 新世界最大の古代都市テオティワカン：英知の集積としての都市(杉山三郎)

閉ざされた空間の多様性／文明の萌芽／認知能力＝知恵こそが、文明の基盤をなす／中規模都市ができて始める／完全計画都市、テオティワカン／多くの人を迎える巡礼地として／暦と数の体系／「太陽のピラミッド」と「月のピラミッド」の二元性／墓は語る／古代人の交流—物を集めるネットワーク／文明の確立から崩壊へ—伝わり、つながる文明の諸要素

第三章 水都ヴェネツィア：交易都市から文化都市へ(陣内秀信)

水と共生する町、ヴェネツィア／逆・中央集権的構造都市—複雑に交差する水と陸のネットワーク／都市を解読する／交易都市から文化都市へ／オリент志向と柔軟性／分散的都市から統合的都市へ／なぜ都市に人が集まるか／城壁の無い町／都市モデル再考／川が結ぶネットワーク／水車の活用／考古学調査がヴェネツィアのイメージを変える／ヴェネツィアの食と産物のネットワーク／ラグーナは自然・環境・歴史の宝庫—文化都市から環境都市へ

- 大同印刷(株) 〒849-0902 佐賀県佐賀市久保泉町上和泉1848-20
TEL 0952-71-8550 <https://www.daidou-jp.com>
- ダイニック(株) 〒105-0004 東京都港区新橋6-17-19 新御成門ビル
TEL 03-5402-1811 <https://www.dynic.co.jp>
- (株) 太平印刷社 〒140-0002 東京都品川区東品川1-6-16
TEL 03-3474-2821 <http://www.p-taihei.co.jp>
- (株) 太洋社 〒501-0431 岐阜県本巣郡北方町北方148-1
TEL 058-324-2111 <https://www.p-taiyosha.co.jp>
- (株) 竹尾 〒101-0054 東京都千代田区神田錦町3-12-6
TEL 03-3292-3617 <https://www.takeo.co.jp>
- (株) とうこう・あい 〒104-0061 東京都中央区銀座7-13-12 サクセス銀座7ビル4F
TEL 03-5148-7200 <https://www.toko-ai.com>
- 東光整版印刷(株) 〒135-0006 東京都江東区常磐2-12-15
TEL 03-3632-0801
- (株) トーヨー企画 〒602-0923 京都府京都市上京区油小路通中立売上ル 油橋詰町93-7
TEL 075-411-8288 <https://www.talligent.jp>
- 図書印刷(株) 〒114-0001 東京都北区東十条3-10-36
TEL 03-5843-9700 <https://www.tosho.co.jp>
- (株) 日新広告社 〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町2-12-10 喜久屋ビル3F
TEL 03-3263-9431 <http://www.nissinkoukokusyua.com>
- (株) 日本経済新聞社 〒100-8066 東京都千代田区大手町1-3-7
TEL 03-6256-7528 <https://www.nikkei.co.jp>
- 日本宣伝販売(株) 〒330-0856 埼玉県さいたま市大宮区三橋3-278
TEL 048-620-1021 <http://www.nihon-senden.jp>
- (株) 博報堂 〒107-6322 東京都港区赤坂5-3-1 赤坂Bizタワー19F
TEL 03-6441-6711 <https://www.hakuhodo.co.jp>
- 藤原印刷(株) 〒101-0052 東京都千代田区神田小川町2-4-5
TEL 03-3291-0191 <https://www.fujiwara-i.com>
- (株) 平文社 〒170-0005 東京都豊島区南大塚2-35-7
TEL 03-3944-0301 <http://www.heibun.co.jp>
- (株) 毎日新聞社 〒100-8051 東京都千代田区一ツ橋1-1-1
TEL 03-3212-3340 <https://www.mainichi.co.jp>
- 誠製本(株) 〒175-0081 東京都板橋区新河岸3-13-1
TEL 03-4212-2735 <http://www.makoto-seihon.com>
- (株) ミヤコシ 〒275-0016 千葉県習志野市津田沼1-13-5
TEL 047-493-3854 <https://miyakoshi.co.jp/>
- (株) 遊文舎 〒532-0012 大阪府大阪市淀川区木川東4-17-31
TEL 06-6304-9325 <http://www.yubun.co.jp>
- (株) 読売新聞東京本社 〒100-8055 東京都千代田区大手町1-7-1
TEL 03-3242-1111 <https://www.yomiuri.co.jp>

一般社団法人 大学出版部協会 賛助会員名簿

- (株) 朝日新聞社 〒104-8011 東京都中央区築地5-3-2
TEL 03-5540-7749 <https://www.asahi.com>
- 重細重印刷(株) 〒380-0804 長野県長野市大字三輪荒屋1154
TEL 026-243-4858 <http://www.asia-p.co.jp>
- (株) アベル社 〒102-0071 東京都千代田区富士見2-2-2 東京三和ビル301
TEL 03-6256-8133 <https://www.abel-sha.com>
- 尼崎印刷(株) 〒661-0975 兵庫県尼崎市下坂部3-9-20
TEL 06-6494-1122 <http://www.ainai.co.jp>
- 英文校正エナゴ 〒101-0021 東京都千代田区外神田2-14-10 第2電波ビル4F クリムゾンインタラクティブジャパン
<https://www.enago.jp/>
- (株) A L E 〒103-0023 東京都中央区日本橋本町2-8-6 日本橋ビル4階
TEL 03-5652-8627 <http://www.adv-logi-eng.co.jp>
- 王子製紙(株) 〒104-0061 東京都中央区銀座4-7-5
TEL 03-3563-7072 <https://www.ojipaper.co.jp>
- (株)加藤文明社印刷所 〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町2-15-6 K-STAGE
TEL 03-3261-8281 <http://www.bunmeisha.co.jp>
- 城島印刷(株) 〒810-0012 福岡県福岡市中央区白金2-9-6
TEL 092-531-7102 <https://www.kijima-p.co.jp>
- (株) 糸川印刷 〒112-0012 東京都文京区大塚6-9-7
TEL 03-3943-9811 <http://www.kumekawa.jp>
- 港北メディアサービス(株) 〒150-0002 東京都渋谷区渋谷2-7-7
TEL 03-5466-2201 <http://www.kohoku.co.jp>
- ㈱コングレゴラブルコミュニケーションズ 〒103-0027 東京都中央区日本橋3-10-5 オンワードパークビルディング5階
TEL 03-3510-3750 <https://www.congre-gc.co.jp>
- 三美印刷(株) 〒116-0013 東京都荒川区西日暮里6-28-1
TEL 03-6807-8377 <https://www.sanbi.co.jp>
- 三立工芸(株) 〒101-0061 東京都千代田区三崎町3-2-10 寺西ビル3F
TEL 03-3261-5171 <https://www.sanritsu-net.co.jp>
- 三和印刷(株) 〒381-2226 長野県長野市川中島町今井1822-1
TEL 026-285-2300 <http://www.sanwaprinting.jp>
- 信濃印刷(株) 〒102-0072 東京都千代田区飯田橋4-1-11
TEL 03-3237-3601 <http://www.shinano-insatsu.co.jp>
- (株) 渋谷文泉閣 〒380-0804 長野県長野市三輪荒屋1196-7
TEL 026-244-7185 <http://www.bunsenkaku.co.jp>
- (株) 眞興社 〒150-0033 東京都渋谷区猿樂町19-2
TEL 03-3462-1181 <https://www.shinkousha.co.jp>
- 新日本印刷(株) 〒162-0801 東京都新宿区山吹町342
TEL 03-3269-3611 <https://www.sinnihon.net>
- (株) 精興社 〒101-0054 東京都千代田区神田錦町3-9
TEL 03-3293-3021 <https://www.seikosha-p.co.jp>
- 創栄図書印刷(株) 〒604-0812 京都府京都市中京区高倉通二条上ル天守町766
TEL 075-255-2288 <https://www.soiei-pb.co.jp>
-

2024年1月～2024年3月新刊



一つの惑星、多数の世界
—気候がもたらす視差をめぐって—
ディベシュ・チャクラバルティ 著
篠原雅武 訳
四六判並製 240 頁 定価 2,970 円
ISBN:978-4-409-03130-8

異常気象による温暖化や災害が、地球と人間社会の間に深刻な亀裂を生じさせている。この危機に対処するためには、人間と自然に対する認識を再考し、新しい関係を築く必要がある。人新世に関する議論を牽引する著者が、ラトゥールやハラウェイらとの対話から新たな思想を示す。



イスラーム・デジタル人文学
須永恵美子／熊倉和歌子 編著
四六判並製 274 頁 定価 3,520 円
ISBN:978-4-409-42025-6

新たな局面を迎えるイスラーム社会に対し、はたして従来の方法論のみで分析することは可能なのか。気鋭研究者らによる最新の成果。



読書装置と知のメディア史
—近代の書物をめぐる実践—
新藤雄介 著
四六判上製 402 頁 定価 4,950 円
ISBN:978-4-409-24162-2

書物をめぐる様々な行為と、周縁化されてきた読書装置との関係を分析し、書物と人々の歴史に新たな視座を与える力作。



翻訳とパラテキスト
—ユングマン、アイスネル、クンデラ—
阿部賢一 著
四六判上製 346 頁 定価 4,950 円
ISBN:978-4-409-16101-2

近代チェコ語の祖ユングマン、ユダヤ系翻訳家アイスネル、亡命作家クンデラ。ボヘミアにおける文芸翻訳の様相を翻訳研究の観点から明らかにする。



福澤諭吉
—幻の国・日本の創生—
池田浩士 著
四六判上製 368 頁 定価 5,060 円
ISBN:978-4-409-04126-0

国家の羅針盤、福澤諭吉の思想と実践——それは、社会と人間をどこへ導いたか？そしてそれによって日本はなにを見失ったのか？福澤諭吉のじかの言葉に向き合うことで、その思想と実践をあらたに問い直し、功罪を問う。池田浩士書下ろし最新作。



ディスレクシア
マーガレット・J・スノウリング 著
関あゆみ 監訳 屋代通子 訳
四六判並製 208 頁 定価 2,860 円
ISBN:978-4-409-34064-6

ディスレクシアの教育やサポートに携わる全ての人々に、ディスレクシアを正しく理解し、改善するための効果的な支援への出発点を示す。



近代日本の身体統制
—宝塚歌劇・東宝レビュー・ノード—
垣沼純子 著
四六判上製 378 頁 定価 4,950 円
ISBN:978-4-409-52093-2

戦前から戦後にかけての宝塚歌劇・東宝レビューを概観し、西洋近代化する日本社会の身体感覚の変貌に迫る。



はじまりのテレビ
—戦後マスメディアの創造と知—
松山秀明 著
四六判並製 550 頁 定価 5,500 円
ISBN:978-4-409-24159-2

番組、産業、制度、放送学などあらゆる側面から、初期テレビが生んだ創造と知を、膨大な資料をもとに検証する。

人文書院 〒612-8447 京都市伏見区竹田西内畑町9 X @jimbunshoin (税込)
TEL075-603-1344 FAX075-603-1814 <http://www.jimbunshoin.co.jp/>

一般社団法人 大学出版部協会 加盟出版部一覧

◎北海道大学出版会

〒060-0809 札幌市北区北9条西8丁目
北海道大学構内
TEL 011-747-2308 FAX 011-736-8605

◎弘前大学出版会

〒036-8560 弘前市文京町1番地
弘前大学附属図書館内
TEL 0172-39-3168 FAX 0172-39-3171

◎東北大学出版会

〒980-8577 仙台市青葉区片平2-1-1
東北大学構内
TEL 022-214-2777 FAX 022-214-2778

◎流通経済大学出版会

〒301-8555 龍ヶ崎市中平畑120
TEL 0297-60-1167 FAX 0297-60-1165

◎聖徳大学出版会

〒271-8555 松戸市岩瀬550
TEL 047-365-1111 FAX 047-363-1401

◎慶應義塾大学出版会

〒108-8346 港区三田2-19-30
TEL 03-3451-3168 FAX 03-3451-3124

◎専修大学出版局

〒101-0051 千代田区神田神保町3-10-3
TEL 03-3263-4230 FAX 03-3263-4288

◎玉川大学出版部

〒194-8610 町田市玉川学園6-1-1
TEL 042-739-8935 FAX 042-739-8940

◎中央大学出版部

〒192-0393 八王子市市中野742-1
TEL 042-674-2351 FAX 042-674-2354

◎東京大学出版会

〒153-0041 目黒区駒場4-5-29
TEL 03-6407-1069 FAX 03-6407-1991

◎東京電機大学出版局

〒120-8551 足立区千住旭町5番
TEL 03-5284-5385 FAX 03-5284-5387

◎法政大学出版局

〒102-0073 千代田区九段北3-2-3
法政大学九段校舎内
TEL 03-5214-5540 FAX 03-5214-5542

◎武蔵野大学出版会

〒202-8585 西東京市新町1-1-20
武蔵野大学構内
TEL 042-468-3003 FAX 042-468-3004

◎武蔵野美術大学出版局

〒180-8566 武蔵野市吉祥寺東町3-3-7
TEL 0422-23-0810 FAX 0422-22-8309

◎早稲田大学出版部

〒169-0051 新宿区西早稲田1-9-12
TEL 03-3203-1551 FAX 03-3207-0406

◎関東学院大学出版会

〒236-8501 横浜市金沢区六浦東1-50-1
TEL 045-786-5906 FAX 045-785-9572

◎名古屋大学出版会

〒464-0814 名古屋市千種区不老町1
名古屋大学構内
TEL 052-781-5027 FAX 052-781-0697

◎名古屋外国語大学出版会

〒470-0197 日進市岩崎町竹ノ山57
名古屋外国語大学内
TEL 0561-75-2503 FAX 0561-75-1723

◎京都大学学术出版会

〒606-8315 京都市左京区吉田近衛町69
京都大学吉田南構内
TEL 075-761-6182 FAX 075-761-6190

◎大阪大学出版会

〒565-0871 吹田市山田丘2-7
大阪大学ウエストフロント
TEL 06-6877-1614 FAX 06-6877-1617

◎関西大学出版部

〒564-8680 吹田市山手町3-3-35
TEL 06-6368-0238 FAX 06-6389-5162

◎関西学院大学出版会

〒662-0891 西宮市上ヶ原一番町1-155
TEL 0798-53-7002 FAX 0798-53-5870

◎九州大学出版会

〒819-0385 福岡市西区元岡744
九州大学パブリック4号館302号室
TEL 092-836-8256 FAX 092-836-8236

◎大阪経済法科大学出版部(休会)

〒581-8511 八尾市楽音寺6-10
TEL 072-941-9129 FAX 072-941-9979

【発行所】

一般社団法人 大学出版部協会
ISSN 0913-3305
振替 00170-8-389131

〒102-0073
東京都千代田区九段北1丁目14番13号
メゾン萬六403号室
TEL 03-3511-2091 FAX 03-3511-2092
E-mail : mail@ajup-net.com
URL : <https://www.ajup-net.com/>

【表紙デザイン】 奥定泰之

【表紙写真】

松岳山と以後ブックス濟州店
(韓国・濟州島)



*本誌のバックナンバーは、大学出版部協会の公式HPでも、PDF版を全文無料でダウンロードできます

大学出版138号(2024年春)

2024年5月1日発行

頒価100円(千共)